

# いわて県 農業会議通信

令和6年度スローガン

進めよう！ 地域計画の策定と実現

No. 80

## 令和6年度は大事な年！ 力を合わせて頑張りましょう！！

農政の憲法とされる「食料・農業・農村基本法」の改正案が国会に提出されました。法律の目的を規定する第1条に、食料安全保障の確保を基本理念に、その実現を図ることが明記されています。輸入に頼っている食料・生産資材の供給の不安定化や農業人口の急激な減少といった実態を踏まえ、国民の食料安全保障を確保することは極めて重要であると考えます。

今後、食料供給困難事態対策法、農振法改正案等の関連法案とともに本格的な議論が行われます。古くから「農は国の基」とされており、国会において十分な審議が行われ、国民に広く食料・農業の重要性についての理解が深まることに期待します。その際、農業で十分な所得を確保できた上で初めて、食料の確保と農地の保全が可能となることを認識してほしいと思います。

さて、「地域計画」の策定期限である令和7年3月まで1年となり、県内各地で策定に向けた取組が進められています。県のまとめによりますと、県内で策定が予定されている地域計画数は417で、このうち令和6年3月までに策定されるのは29と見込まれています。言い換えれば、5年度内に策定されるのは7%程で、残る93%をこの1年間で策定することになります。

また、「地域計画」は、一度策定して終わりではなく、状況の変化に応じて見直しを行うことが必要です。そのためには、計画策定の取組を通じて、定期的に地域農業の将来像を地域の皆さんで話し合う仕組みを創っていくことが何よりも重要であると考えています。農業に関わる全ての方々の力を結集してまいりましょう。

このように、令和6年度は、農業委員会組織としても非常に重要な1年となります。農業会議では、「地域計画の策定とその実現に向けた農業委員会の活動支援」を最重点に掲げ、専任の「最適化活動推進監」に村上俊一事務局次長を配置し、この推進監を中心に農業委員会活動を強力に支援してまいります。皆さんと力を合わせて頑張りてまいりますので、よろしく願いいたします。

(松岡憲史)

## 令和5年度 定期総会開催

令和5年度定期総会を3月15日にエスポワールいわてで開催しました。

開会にあたり杉原会長は、「令和6年度は、非常に重要な年となる。地域計画の策定が2年目となり、佳境に入ってくる。地域計画の策定とその実現に向けた農業委員会の活動支援や、農地利用最適化活動の見える化の徹底、デジタル化による農業委員会業務の効率化支援などに重点的に取り組んでいく。また、農業会議の事務局体制を強化する。担い手不足等の問題はあがるが、農業委員・農地利用最適化推進委員が力を合わせて、また、農業団体一体となって、この難局を乗り越えていきたい。」と6年度の意気込みを語りました。

総会では、「令和6年度事業計画及び収支予算」を報告するとともに、「令和6年度会費の額及び徴収方法等」「令和6年度役員報酬等の決定」等3議案全て、原案通り決定されました。



## 令和6年度事業計画概要

令和6年度は、地域計画の策定とその実現に向けた農業委員会の役割発揮や、農地利用最適化活動の見える化の徹底、デジタル化による業務の効率化などの農業委員会業務が円滑に展開できるよう、農業委員会への支援活動を強化することとしています。また、新たに農業会議内に専任の最適化活動推進監を配置し、農業委員会活動を強力に支援することとしております。

市町村農業委員会や農業者の期待に応えられるよう活動の一層の充実強化を図って参ります。

### 重点取組事項

- 1 地域計画の策定とその実現に向けた農業委員会の活動支援
- 2 遊休農地の発生防止・解消の推進
- 3 デジタル化の推進等による農業委員会の業務効率化の支援
- 4 新規就農者の確保・育成と担い手経営体に対する支援
- 5 業務推進のための事務局体制の強化

※事業計画は、当会ホームページ（[www.iwate-ca.or.jp](http://www.iwate-ca.or.jp)）に掲示しております。

## 農業委員会等表彰受賞

令和5年度農業委員会等表彰において、花巻市農業委員会（小田島新一会長）と岩手町農業委員会前会長 松本良子さんが表彰されました。

農業委員会等表彰は、農地等の利用の最適化の推進に関し顕著な実績をあげた農業委員会、農地等の利用の最適化の推進に関し他の範となる顕著な功績があった農業委員及び農地利用最適化推進委員を国が表彰するものです。

当日は、農林水産省 東北農政局 岩手県拠点 島尾武文地方参事官から賞状の伝達が行われました。

受賞された花巻市農業委員会、松本良子様、おめでとうございます。



（藤平しのぶ）

## 新しい職員の紹介

● 農地・経営部 部長 **佐藤 圭**  
 一関の洪水地帯の兼業農家に生まれ、29年間岩手県職員として、主に畜産関係の仕事をしてきました。老いた親父にかわり田を耕すうちに、農業の楽しさを感じています。岩手の農業の魅力を語り、次世代に引き継ぎましょう。



● 主事 **丞原 智美**  
 Uターンで岩手に戻ってまいりまして、前職では建築設計事務所の事務職をしていました。長年の「岩手の農業に貢献したい」という思いを胸に、まっすぐな姿勢で業務に取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



● 主事 **法領田 美桜**  
 3月まで金融機関に勤めていました。この度ご縁をいただき、経験のない業界で挑戦できることに期待で胸を躍らせています。岩手県の農業の発展の為に、一日でも早く貢献できるように日々努めてまいります。



● 就農相談員 **富山 俊行**  
 3月まで岩手県職員として、農業改良普及センター等に勤務してました。農業会議の業務を通じて、本県農業の発展に少しでも貢献していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



● 主事 **前川 由衣**  
 4月から正職員として働くことになりました。心機一転、初心を忘れずに業務に取り組んでいきたいと思っています。引き続き皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いたします。



● 主事 **中村 静**  
 4月1日付で専門員から正職員となりました。仕事をする上では、素早いレスポンスを心掛けています。一方、早とちりと空回りが欠点です。少しでも、農業委員会の皆様のお役に立てるよう精進します。よろしくお願いたします。



## 令和5年度経営戦略セミナー開催

岩手県農業法人協会（照井勝也会長＝㈱西部開発農産代表取締役）は、飼肥料、資材価格の高騰や人材不足など、農業を取り巻く環境が大きく混迷するなかで、持続可能な農業経営の展開に資するため、経営戦略セミナーを岩手県農業会議との共催により1月22日盛岡市内で開催し、県内外から約170人が参加しました。

講演講師の㈱久松農園 代表 久松達央氏は、茨城県で年間約100種類の野菜を有機栽培し、個人消費者や飲食店に直接販売しています。「淘汰の時代の農業を考える」をテーマに久松代表は、世界の状況や日本農業の現況について説明しながら、補助金や大組織に頼らない独自の農業経営戦略について講演しました。

また、県農業法人協会会員の(有)かさい農園の葛西信昭氏は、「農でつながる 農で輝く～わが社の経営戦略～」と題して事例発表をしました。ピーター・ドラッカーの「マネジメントは人の幸せのためにある」を経営の柱として、トップが代わっても持続していける仕組みづくりについて発表がありました。

参加者からのアンケートでは、「経営戦略について多角的な視点から聴くことができ勉強になった」、「社会の流れにも目を向けて、広い視野で考えていく必要があると感じた」等の感想が寄せられました。

（藤平しのぶ）



経営戦略セミナーで講演する久松氏

## 農業委員の活動紹介

### 盛岡市農業委員会

盛岡市農業委員会で活動している原 弥福<sup>みさき</sup> 農業委員（39）は、酪農を営んでおり、乳牛を約40頭飼育しています。

青森県田子町にある実家は葉タバコ農家です。農業を営むきっかけとなったのは、結婚後、JAに勤め、農家と親交を深め、農業について学ぶ中で、妻の実家で営む酪農を受け継ぐ自覚が芽生えたことでした。

酪農を営む中で、動物を取り扱う仕事のため、死に直面することもあり、寂しさを覚えると同時に、命を大事に育てていきたいと考えるようになりました。

農業委員には、地元の農家から推薦を受け、令和5年7月に就任し、現在1期目です。農業委員会活動を行う中で「委員になったことで人とのつながりが増え、農業情勢や地域の状況がより多く耳に入るようになり、視野が広がったことを実感している」と話しています。

日頃の委員活動では、周りの先輩委員にアドバイスをもらいながら活動しており「まだ経験が浅く、助けられながらではあるが、今後積極的に活動を行い、地域に信頼され気軽に相談を受けられる委員になりたい」と抱負を語りました。



育成牛の様子を確認する原 委員

## 農業委員会の活動紹介

### 岩手町農業委員会

岩手町農業委員会（福土好子会長、農業委員9人、農地利用最適化推進委員16人）は、全国でも女性の割合が高い委員会です。

令和5年7月に改選し、農業委員10人のうち女性4人（女性の割合40%）、推進委員16人のうち女性2人（同割合12.5%）と女性推進委員が1人増え、前会長に引き続き、女性が会長に就任しました。

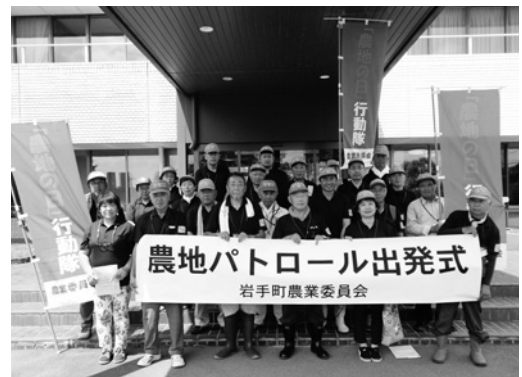
女性委員が増え、女性の会長、会長職務代理者を輩出するようになり、細やかな視点から以前より会議が活発になったという声が聞かれます。

昨年の7月末、農地の日の活動の一環として、農地パトロール（農地利用状況調査）を行いました。

事前にそれぞれの担当委員が調査した情報をもとに、遊休農地の早期発見と防止を目的とした調査を3班に分かれて実施。それぞれの地権者へ、今後の農地の利用意向を聞き取りすることにより、農地の活性化と有効利用を図っています。

遊休農地の増加が懸念されますが、新たな耕作者に引き継ぐ農地、保全管理する農地、非農地判断とする農地を明確にし、どのように守っていくか、これからの地域計画の話し合いに繋がっていきます。

今後も、委員の資質向上と農業委員会活動の活性化に努めていきます。



農地パトロール出発式での集合写真

## 市町村農業委員会会長・事務局長、 女性農業委員・農地利用最適化推進委員合同研修会を開催

2月8日・9日の両日、盛岡市内で、市町村農業委員会会長・事務局長と女性農業委員・農地利用最適化推進委員による合同研修会を開催しました。

令和7年3月までの地域計画策定の取組を一層加速させていくため、先進事例として、宮城県美里町の産業振興課・佐々木友統<sup>ゆうと</sup>氏、農業委員会事務局・澤村拓也氏に、地域計画策定・目標地図素案作成の取組等について発表していただきました。

町が地域計画の策定方針を定めて計画的に取組を進め、農業委員が中心になって地域の話し合いをリードしていること、令和5年度内に町内6地区のうち3地区で策定が完了することなどが紹介されました。

また、「いわて女性活躍エグゼクティブアドバイザー」を務める、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社執行役員の矢島洋子氏に、「男性も女性も、一緒に活躍していくためには」と題して講演をいただきました。

性別にとらわれず、多様な人材が活躍し続けられる農業委員会となるには、単に女性の人数を増やすだけではなく、差異を尊重し、無意識の差別をなくす取組を行う必要があるとの指摘がありました。

さらに、(一社)全国農業会議所・新聞業務部長の大出丈夫氏より、農業委員会を取り巻く情勢等について報告をいただきました。

「今後の地域活動の参考にしたい」、「委員としての役割、使命を自覚し地域農業を守っていきたい」との感想が寄せられました。(中村 静)



講演を行う矢島氏

### 農業者年金加入推進ニュース

令和5年度は加入推進目標を81人として取り組んできました。

令和6年2月末の新規加入者数は28人となり、目標に対する達成率は35%となっています。令和4年度の同時期と比較すると、6人の減となっています。

令和6年度は、「若い農業者及び女性農業者等への周知徹底、加入者累計15万人早期達成強化運動」の2年度目になります。

JAグループと連携し、若手農業者及び女性農業者を重点対象として加入推進活動を強化するとともに、これまでの加入実績と加入推進活動を農業委員会として検証し、加入推進活動に反映させましょう。(菅原 聡)

	加入推進目標	令和6年2月実績	進捗率	令和5年2月実績	前年差
岩手県	81人	28人	35.0%	34人	-6
若年層(20~39歳)	51人	12人	24.0%	11人	-1
女性	39人	7人	32.0%	14人	-7

## 全国農業新聞普及ニュース

令和6年度は、普及目標を3,400部以上とし、下記重点取組事項を柱に普及推進してまいります。

引き続き、会長の陣頭指揮の下、農業委員・農地利用最適化推進委員、事務局一丸となった普及推進をお願いします。

### 【重点取組事項】

- ▶ 農業委員及び農地利用最適化推進委員の皆購読
- ▶ 新規申込部数がゼロの農業委員会解消

★全国農業新聞表彰・第30回「農業委員会だより」全国コンクールにおいて、表彰される農業委員会が決定しましたのでお知らせします。表彰される農業委員会の皆様おめでとうございます。

### ○全国農業新聞表彰

- ・普及拡張特別優秀農業委員会 普及部数の部 全国第8位  
奥州市農業委員会
- ・全国農業新聞活動表彰 優秀農業委員会賞  
花巻市農業委員会、遠野市農業委員会、一関市農業委員会、奥州市農業委員会

### ○第30回「農業委員会だより」全国コンクール

- ・農業委員会全国農業新聞賞  
北上市農業委員会

(前川 由衣)

## 全国農業図書新刊案内

### 農業経営基盤強化促進法の解説・一問一答集の改訂版



認定農業者、認定新規就農者などの担い手育成と農地集積等の支援を目的とする農業経営基盤強化促進法について、条文ごとの詳しい解説と改正経過を掲載。2022年改正の最新法令に基づき大幅改訂し、資料編として三段対照式の法令と処理基準、基本要綱を盛り込む。

(目次)

- 第一編／農業経営基盤強化促進法の逐条解説
- 第二編／同制定とその後の経緯
- 第三編／同法令（法律、施行令、施行規則等）
- 第四編／同通知（処理基準、基本要綱）

図書コード：R05-49 A5判・約600頁 定価3,850円 税込み・送料別



「目標地図を含む地域計画の策定」「農業を担う者の確保・育成の追加」「農用地利用集積等促進計画の策定」など2022年改正の最新法令に基づき大幅改訂。制度運用で疑問にぶつかったときの手引きとなるよう一問一答形式で解説する。

(目次)

- I 農業経営基盤強化促進法の目的等
- II 基本方針及び基本構想
- III 農地中間管理機構特例事業
- IV 旧農地利用集積円滑化事業
- V 認定農業者制度
- VI 認定新規就農者制度
- VII 農業経営基盤強化促進事業

図書コード：R05-50 A5判・約300頁 定価2,530円 税込み・送料別

お申し込みは 一般社団法人岩手県農業会議へ

TEL：019-626-8545 FAX：019-629-9210

(前川 由衣)

編集・発行人／事務局長・松岡憲史 〒020-0884 盛岡市神明町7番5号(パルソビル4階) 電話019-626-8545 印刷／株式会社興版社